



**室崎益輝 (むろさき よしてる)**  
関西学院大学総合政策学部教授

1944 年生まれ。1971 年京都大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。神戸大学工学部教授、独立行政法人消防研究所理事長、総務省消防庁消防大学校消防研究センター所長を経て、現職。内閣府中央防災会議専門委員会委員。日本災害復興学会会長。

阪神・淡路大震災をはじめ大規模な災害が発生すると、数多くのボランティアがいち早く被災地に駆けつけて、被災された方々の救援や被災地の回復に大きな力を発揮している。この間の取り組みの中で、ボランティアの活動は大きく発展してきている。救援から復興に至るまでの持続的な支援、被災地に負担をかけない自律的な支援、あるいは被災された方々に寄り添う協働的な支援が、被災回復の文化として定着しつつある。

ところで、救援や復興の協働ということでは、個々の被災された方々とボランティアの寄り添いに加えて、被災地コミュニティとボランティア集団との連携がどうしても欠かせない。ボランティアが被災地に寄り添うと同時に、被災地がボランティアに寄り添うことが欠かせない。被災地の再建には、ボランティアの支援力とともに被災地の「受援力」が欠かせないということである。この「受援力」の向上により、ボランティアの力が引き出され、被災地の復興がより迅速に進むことになる。

## 目次

- 防災ボランティア活動を知らない人にまず読んでもらいたいページ
- 地域住民（地域のリーダーの人たちを含む）と行政の人たちに読んでもらいたいページ
- 特に行政の人たちに読んでもらいたいページ

● 何のためのパンフレットなの？ ーボランティアを受け入れる「受援力」の大切さー	P.1
● 刊行にあたってー室崎益輝教授からのメッセージー	P.2
● 防災ボランティア活動とは？	P.3
● どんな人たちが防災ボランティア活動をしているの？	P.4
● ー近年の防災ボランティア活動の被災地でのあゆみー	P.5-6
● ー被災地で活動したボランティアの声ー	P.7
● ーボランティアを受け入れた地域の声ー	P.8

まずは、知る

<平時>	● 平時に高める「受援力」	P.9
<災害発生時>	● お手伝いの依頼の基本	P.9
	● ボランティア活動の基本	P.10
	● 家屋では	P.10
	● 避難所では	P.10
	● ー災害ボランティアセンターとは？ー	P.11
	● ー受け入れ事例の紹介ー	P.12
<復興時>	● 復興時のボランティアとのおつきあい	P.13
<全体を通して>	● 特に行政の人たちへ	P.14
	● 「受援力」を高めることは、地域防災力の向上につながります (裏表紙)	

防災ボランティア活動を受け入れる知恵